

群馬県立太田高等学校 学校評価一覧表①（令和3年度版）（様式1）

羅針盤			方 策	第1回点検評価		第2回点検評価	
評価対象	評価項目	具体的数値目標		自己評価	外部アンケート等	自己評価	外部アンケート等
I 特色ある学校作りを努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 学校に対し、好きだと感じている生徒が、80%以上である。	○大規模伝統校としての良さを、生徒同士も感じられる学校づくりを行うため、ブランドデザイン等を共有しながらの統一した指導をさらに努める。また、多様な価値観のある生徒がいることを職員間で共有し、より深い生徒理解を実践する。 ○コロナ禍の折り、個々にコミュニケーションを取り、それぞれの生徒の要望に対応する準備を常に行い、対面の学習指導の減少に備える。	B	A	A	A
		② 3年間を見通した系統的・計画的な学習指導・進路指導により、第一志望校への合格率80%以上、国立大学合格者数150名以上である。	○学年・教科・探究キャリア教育係・進路指導部が連携して、学校として統一のとれた3年間を見通した進路指導体制を確立する。 ○学力向上や進路（キャリア）に関する意識が高められる内容を検討したうえで、各学年ともに適切な進路やキャリア教育的な行事を実施する。特に、面談・学年集会等を通じて高い志の維持や第一志望への強い拘りが持てるように早期からの系統的できめ細やかな指導を実践する。 ○他校との情報交換・外部機関の研修会への参加を通して、進路実現に向けた授業改善、進路行事の精査・改善を押し進める。	B	B	A	B
		③ 部活動加入率が各学年90%以上で、この内80%以上が積極的な活動である。	○部活動顧問と担任との情報交換を適宜実施して生徒の活動状況を把握し、適切な状況下で活動ができるような環境作りを進めていく。 ○各部活動とも一段階上の目標を掲げるとともに、本校部活動指導方針に基づき、主体的・合理的・効果的・効率的な活動を行い、生徒の育成と実績の向上を図る。 ○正副顧問の連携を図ることで、生徒の安全確保に努めるとともに、職員のワークライフバランスにも配慮する。	B	B	B	B
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に満足している生徒が80%以上である。	○60分授業を定着させ、時間配分等新たな課題に対して継続的に工夫・改善を図る。 ○新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の思考力と判断力、表現力の育成のために、引き続き主体的に対話的な深い学びを意識した授業を推進し、生徒の目標に沿った進路実現に導く。 ○互見授業（年間3期間）や研究授業（各教科年間2回程度）を通じて、各教員の指導力・生徒理解力の向上を図る。 ○各教科・科目において習熟度別対策をできる範囲で実施していく。	B	A	A	A
		⑤ 進路実現に向けて実施している、補習・課外授業に満足している生徒が80%以上である。	○土曜課外の目標および目的の明確化によって生徒の学習意欲の向上を図るとともに、実施時期の適正化や実施内容の改善を推進する。特に、地歴・理科の実施や習熟度別課外の実施等、生徒の実態により即した内容となるように弾力的に活用する。 ○通常授業の充実を柱に、課外・補習の役割分担や位置づけを明確にし、それぞれを的確に補完させながら生徒全体の学力向上を図る。 ○課外・補習の実施状況や実施内容を定期的に検証し、生徒の満足度を高めていく。	A	A	B	A
		⑥ 総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習活動に満足している生徒が80%以上である。	○探究・図書部を中心に進路指導部・学年と連携を密にし、計画的・系統的な学習活動を実施する。特に1年生では、自校内における講演会やセミナー、外部機関への訪問等を通して興味関心を広げさせながら、自身の軸となる部分を見出せる教育活動を実践していく。2年生では設定した課題について調査や実験、研究活動が計画的に実施できるよう入念な準備期間を設ける。 ○生徒の主体的な学習の大要を教職員・生徒が共通理解し、探究・図書部が現代社会の諸問題に関わる各分野の良書を揃えとともに、レファレンスサービスを行うことで積極的に援助する。	B	B	A	B
3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。		⑦ 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	○学年団を中心に教科担任・クラス担任との連携に基づいた二者面談等を通じて生徒の状況を把握したうえで、学習法や目標設定など生徒への適切な支援をしていく。 ○学習に対する達成感を高めるために、各テストの目的・意義の明確化や記述・論述問題を適切に取り入れた作問の工夫を図っていく。 ○客観的な指標として模擬試験結果の分析を通じて中期的な育成課題を洗い出し、学習におけるポイント（学習方法や科目バランス）を明確にしていく。 ○個に応じた学習指導を展開するために、生徒の状況に応じた小グループでの指導や添削の学年横断的な取組を継続し、個々の教員の指導力向上を図り、生徒に還元する。	A	B	A	A
		⑧ 学習内容の定着等のために、家庭での1日当たりの平均学習時間は3時間以上である。	○学習・授業・復習の学習サイクルが習慣化され、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるよう、授業改善をさらに推進する。 ○主体的な学習者になるように、学年、教科が連携し課題の量や内容が生徒の実態にあうように改善を図る。習熟度によって課題の内容を分けることも検討する。また授業との関連や生徒の学習意欲の喚起にも留意し計画的に課題を課す。 ○生徒の進路意識を高めるため、進路講演会等の進路行事の改善や充実を図る。特に、「生徒にとって有益」を観点として、外部講師の活用と校内教職員による指導を適切に活用する。	B	B	B	B
		⑨ 3時間以上家庭学習をしている生徒が1年では43%、2年では29%とまだまだ少ないと感じている。生徒がより積極的に学習に取り組めるよう課題や授業の予習、復習の仕方について考える。	○授業内容に「満足」とする生徒は92.1%である。個々の生徒に応じた指導が展開されていると考える。一人1台パソコンの有効利用について情報部を中心に活用法を提案し研修を行うなど、教師が研究と修養に努めている。 ○新学習指導要領に基づく、指導と観点別評価の一体化について研修を行い、次年度1学年実施に備えられるよう準備している。 ○生徒の実態や大学入試科目等の諸状況を見ながら、授業コマ数、教育課程編成の検討をさらに深めていく。また、R4年度入学生から実施される新学習指導要領に基づく教育課程表を編成していく。 ○土曜課外について「良い」、「とても良い」と答えた保護者は89%であり、生徒では1年生が約80%、2年生が約76%であり満足度は高いといえる。 ○3学年の進路課外についても保護者の約87%が「良い」、「とても良い」と答え、生徒の約80%は「満足」、「大いに満足」と答えていて満足度は高いといえる。 ○授業第一主義を前提として、授業を補完する上で課外の重要性を伝えると共に、その実施教科や内容、指導方法についても今後更に検討する。	B	B	A	B

群馬県立太田高等学校 学校評価一覧表①（令和3年度版）（様式1）

羅針盤			方 策	第1回点検評価		第2回点検評価	
評価対象	評価項目	具体的数値目標		自己評価	外部アンケート等	自己評価	外部アンケート等
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にやっている」と認識している生徒が80%以上である。	○生徒会活動や学級活動を通じて、生徒主体のいじめ防止活動を実施する。 ○いじめ防止や早期発見のためには保護者とのつながりも重要であり、広報活動の充実をより一層図る。 ○「いじめ防止等の取組状況調査(生徒・保護者)」を通じて、本校の取組を検証する。	B	B	B	B
		⑩ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回程度行っている。また、生徒アンケートや学年分掌の情報交換を通して、いじめの発生防止と発見に努め、いじめの解消100%をめざす。	○適切な指導を行う前提として生徒に関する必要十分な情報を共有するために、月2回以上の学年会議と相談係会議を設定する。また、つまずきや不登校の予防的指導を重視し、定例会議の場に限らず日頃から教職員間の連携に努める。 ○いじめはどこでも存在するという共通認識のもと、生徒アンケートや学年・分掌の情報交換を通し、いじめの未然防止を進め、発見したいじめには迅速に対応して、いじめの根絶を図る。	B	B	A	B
		⑪ 生徒会行事に満足感・達成感を持っている生徒が70%以上である。	○行事の企画や運営などにおいて生徒が主体的に取り組むことができるように、良識の範囲内で生徒に裁量権を与えて行動させる。 ○煌斌祭実施初年度になるので、生徒の主体的な活動をサポートしながらも、的確な指示を適切なタイミングで行うことを心掛け、充実感に満ちた行事とする。	A	A	A	A
		⑫ 職員・生徒・保護者間のコミュニケーションを密にする取り組みを行うとともに、学校生活に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○各学期ごとの二者面談や三者面談の「ねらい」を明確化し、面談の成果をあげていく。 ○保護者の視点に立った情報発信を意識し、三者間の連携を密にする取組(三者面談・学年保護者会、保護者アンケートなど)を有効に活用して、相互信頼関係を構築し、透明性と安心感のある学校づくりを進めていく。	B	B	B	B
5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	13 家庭と連携をとりながら、(正当な理由でない)遅刻を0%にする。	○基本的な生活習慣の確立が、充実した学校生活の基盤であることを生徒に自覚させる機会を様々な場面で設け、自己管理能力を高める。 ○「家庭は生徒を送り出す、学校は生徒を迎える。」この関係性に基づいて、学校と保護者の信頼関係の構築を意識する。 ○交通安全指導・登校時指導を通し、ゆとり登校を心掛けさせ、遅刻者の自覚を促す。 ○「保健だより」を定期的に発行し、感染症などの予防や、生徒の体調管理に役立つようにする。	B	B	B	B	
		⑭ いじめと真剣に向き合い、常にいじめを許さない気持ちと態度で臨んでいる生徒が90%以上である。	○年間2回実施している「いじめ防止強化月間」で、のぼり旗等を利用した活動を通して、学校全体でいじめに向かわない集団を形成する。 ○「スマホ利用ルール」を周知し生徒・保護者を交えて再認識することで、SNSを介したいじめの未然防止に努める。	B	B	A	B
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が70%以上である。	○進路指導室や資料室を生徒が利用しやすいように整備し、必要な情報をタイムリーに得られるよう工夫する。 ○生徒及び保護者に対して進路情報を適切に提供できるよう努める。特に保護者会や三者面談の機会では情報を精査したうえで資料を準備する。 ○情報発信も、紙媒体、デジタル媒体(一斉メール、Classi、webページ)を場面に応じて使い分ける。 ○学習法等についても、進路部が学年団等を通じて生徒に提供できる情報をより整備する。	A	A	A	A
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯ 自らの進路について考え、日々の生活に取り組んでいると自己評価する生徒が70%以上である。	○探究活動の計画的な指導を充実させることで、進路指導・キャリア教育と連携した活動となるように整備する。特に、生徒の発達段階に合わせて自らの将来を見通せるように心がける。 ○自身の進路(キャリア)と高校生活が密接に関連していることを認識させ、学習や部活動などの場面で動機づける。 ○インターンシップ(社会への試行的参加活動)への積極的な参加を推進する。	A	B	A	A
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	○一斉メール・ホームページを活用したタイムリーな情報発信は保護者から高い評価を得ており、この体制を継続する。 ○新システムによるホームページ作成により、週1回以上の更新で、タイムリーな情報を発信する。	A	A	A	A
		10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ オンラインによる教育活動を10回以上実施する。	○教職員が、ICTを活用した教育活動に取り組みやすいように校内の環境を整備していく。 ○校内の研究授業において、ICTを活用した授業の取り組みを推進していく。 ○校内において研修や意見交換会を開催し、有益な情報の共有を図る。	A	/	A
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	○学校行事や授業に関するオンラインのアンケートを積極的に実施する。 ○ICTでの連絡等を積極的に行い、ペーパーレス化の促進を進めていく。また、そのことに関して生徒・保護者の理解を得る。	A	/	A	A
		⑳ 9月の分散登校時においては、GoogleClassroom、GoogleMeetを活用し、ほとんどの教員がオンライン授業を実施することができた。また、アンケートにおいても、生徒の87%が分散登校中のオンライン授業の内容に満足していると答えている。今年度の反省を踏まえ、ICTを活用した指導の充実に向けた環境整備、体制作りを行っていく。	○夏休み中から、オンライン授業の実施に向けて体制を整え、2学期の分散登校開始から、ほとんどの授業においてオンライン授業を実施することができた。今後は、オンライン授業の充実に向けた情報交換、研修、環境整備等を行い、改善を図っていく。	A	/	A	A